令和５年度学校評価結果について

広野小学校長　大和　利弥

Ⅰ　学校評価の実施にあたって

広野小学校では，令和５年度の学校評価を次のような方法で実施した。

１．評価基準は「Ａ：はい　Ｂ：どちらかといえば『はい』　Ｃ：どちらかといえば　『いいえ』　Ｄ：いいえ」に統一した。その上で，「Ａ：はい」「Ｂ：どちらかと　いえば『はい』」を高い評価として捉え，それ以外を低い評価（反省すべき項目）として，その要因を分析した。
２．アンケートを通じた児童，保護者，教職員の評価については，令和４年度との比較の上で今年度の教育について分析した。分析では，まず，継続して評価がよかったものについてその内容と方策を検討し,より一層高められるように取組に生かせればと考える。また，重点項目について，前年度より優れていたもの，逆に劣っていたもの，前年度同様に評価の低かったもの，今年度の教職員が低い自己評価をおこなったもの等について取り上げ，分析した。
３．上記の方法でまとめたものを，学校を外部から観察していただいている５名の学校運営協議会委員の方に送付しご意見を伺った。
４．まとまった学校評価については，今年度中に広野小学校ホームページで公表する。

上記の方法で分析したことを，次に述べる。

Ⅱ　アンケート分析と考察

１．継続してよかった評価

（１）授業や活動について

（アンケート該当項目　児童４，５，６，７，１４　保護者２，３，４　教職員２，３，７）

授業中の発言や勉強時間に新しいことを知ることが楽しいと感じている児童がほとんどである。児童の実態を把握し，児童の意見を大切にした授業展開を心がけていることも大きいと思われる。また，体験的な学習を取り入れるとともに，ＩＣＴを活用して分かりやすい授業をこころがけていることが，アンケートの結果からうかがえる。

掃除については，ほとんどの児童が，はやく取りかかり，最後まで一生懸命できている。異学年活動（チーム活動）を実施し，児童が自ら考え，実践できる活動を継続しているからだと思う。今後も児童が楽しく活動し，分かる授業や児童が主体的・協働的に活動できる取組を続けていきたい。

一方で,「勉強中に自分の考えを発表している」,「休み時間は外で遊んでいる」については肯定的な意見の割合が下がっている。外遊びについては，外遊びよりも室内遊びを好む児童の割合が多くなったことも考えられる。週目標で奨励されていた期間は外に出かける児童も，強制されなければ室内で過ごす姿も見られた。体力向上の視点からも，目標設定や外遊びの奨励を進めていきたい。

（２）学校生活・友達関係について

（アンケート項目　児童８～１３　保護者５，１４　教職員５，１２）

「学校へ行くのが楽しいと思う児童の割合」「明るく楽しい学校生活が送れていると感じる保護者の割合」が高い。また，どの項目も昨年度から継続してよい傾向にある，学級の友達だけでなく異学年活動（チーム活動）が充実しており，一人一人が認められる環境があり，役割がある活動や行事を実践しているからだと考えられる。また，人権学習では，生命(いのち)の安全教育において，性や人との身体と心の距離やについても学習しており，今後も継続していく必要がある。

（３）環境や施設・設備の安全点検，安全確保について

（アンケート項目　児童１４，保護者６，１５，１６　教職員１４，１５）

児童は時間いっぱい一生懸命掃除を行う習慣が身についており，縦割り班清掃（チーム清掃）や朝のボランティアタイムで掃除を行い，校舎内外の美化に努めることができた。しかし，保護者の結果は，どの項目においても肯定的な割合が低下している。多発する交通事故

や自然災害発への不安，安全確保への関心も高まりっていると考える。登下校の安全確保や災害を想定した避難訓練も年間を通して実施はしているが，十分とは言えない。様々な状況に対処する訓練や危機管理マニュアルの改善点を生かした安全確保・避難訓練が十分できていないという課題もある。保護者の協力も得ながら，安全確保・環境美化に努めていく。

２．重点項目に関わる評価

（１）基本的な生活習慣について

（アンケート項目　児童１，２）

食の大切さを食育指導等で児童に伝え，保護者への啓発も行われており，ほとんどの児童が朝ご飯を食べている。食育パワーアップ作戦等で関係諸機関と連携をして，朝ご飯の大切さを指導する取組もその要因にあげられる。さらに全員が朝ご飯を食べて登校できるよう引き続き働きかけていく。早寝早起きについては，肯定的な児童の割合は増加しているものの，高学年になるにつれ「どちらかといえば「いいえ」」の傾向が強くなっている。就寝時刻が遅く，そのことが一日の生活リズムに影響を与え，起床時刻も遅くなる傾向にある。また，メディアチャレンジの取組等を継続し家庭と連携し使用時間とその影響等を啓発していくこが大切である。

（２）あいさつについて

（アンケート項目　児童３，保護者１，教職員４）

児童・保護者・教員ともよい傾向にある。職員室の出入り・給食配膳時のあいさつなど，よい伝統が引き継がれている。家庭においてもあいさつの大切さを話していただき，家庭でも実践していただいているからだと思う。今後とも，継続的にあいさつの意義について話をし，お互いに気持ちの良いあいさつがかわせるようにしていきたい。

（３）家庭学習について

（アンケート項目　児童１５，保護者８）

昨年度と比べ，自信をもって「はい」「どちらかといえば「はい」」と答える児童と保護者の割合が増加している。しかし，毎日宿題を行い提出できているが，家庭で音読や日記，休日での学習が十分ではないこと感じる状況もあり，学力の定着に課題がある。家庭学習の課題の出し方や内容を検討するとともに，保護者にも家庭で児童の自主学習や読書，日記を点検してもらうなど協力体制を築いていく必要がある。

（４）学校や家庭での読書活動について

（アンケート項目　児童１６，保護者７，教職員７）

ほとんどの児童において，読書への関心が高まっている。保護者のアンケート結果からも，家庭において音読や読書の習慣が身についてきていることがうかがえる。引き続き朝の活動等で読書の時間を確保するとともに，読み聞かせを推進し，今後も親子読書や週末読書の継続に取り組んでいく。

（５）情報発信・情報公開について

（アンケート項目　保護者９，１０，教職員１６）

ホームページや学校だより・学年だよりに，児童の活動の様子や保護者へのお知らせ等を掲載し，情報発信を行っている。特に，ホームページでは，様々な教職員が学習や行事の様子を日々更新している。しかし，ホームページ閲覧に関しては，昨年度以上に，７５％の保護者が「１ヶ月に数回」，「ほとんど見ない」と回答しており，情報発信の場としてうまく機能していない現状がある。保護者に広報を続けていくとともに，より伝わり易い方法を構築していく必要がある。

（６）開かれた学校づくりについて

（アンケート項目　保護者１２，１３，１７　教職員２０，２１，２２）

コロナ禍における制限解除後，行事や活動が見直しされ再開されてきている。再開に消極的な考えと積極的な考えがあり，児童の活動の様子を見ていただいたり，保護者とともに活動できる内容を考えたりしながら，開かれた学校づくりに努めていきたい。今後は，児童の学びや学習効果を検討し，働き方改革への理解も進めながら，ＰＴＡ役員会や学年部会での話合いを充実させ，保護者の方々と連携を図っていきたい。

Ⅲ　学校運営協議会委員アンケートからの考察

全ての項目について，肯定的な結果となっている。小規模校のよさを生かし，地域を教材にした学習を今後も継続していきたい。学校の環境整備，特に防災や交通事故防止等，安全面については，安全点検や避難訓練，保護者を巻き込んでの取組等工夫し取り組んでいきたい。

Ⅳ　改善に向けての具体的な取り組み

今回の学校評価のまとめから，次年度は次のことを重点課題として取り組む。

１．学力向上
２．基本的な生活習慣の確立
３．開かれた学校と情報公開・発信
４．働き方改革